

平成29年度事業実績

当事者ソーシャルワーカーの養成を目指した、聴覚障害者支援の本プロジェクトは本年度4名の学部新生（含盲ろう）、1名の専門職大学院生、1名の大学院研究科学生（盲ろう）、そして通信科の学生2名を迎えた。本年度は、日本手話による入試が開始されてから4年が経ち、初めての受験生が卒業したが、その学生は社会福祉士国家試験に合格、卒業と同時に特別支援学校教諭に採用された。

事業として第一に聴覚障害をもつ学生の授業に質の高い情報保障、すなわち手話通訳・パソコンテイクを提供した。第二に、ろう者の母語である日本手話でろう者の教授陣が直接授業を提供した。これはろう者のみが教える日本で唯一の正規のコースであるため、他大学の学生も単位互換制度を使って受け入れてきた。今年度成果が単行本として出版された。第三に情報保障付き授業とろう講師の手話による授業の二本立てでのろう・難聴の高校生のための進学支援を行った。

また来年度から学校に不適應の聴覚障がいのある高校生のために自宅でできる文科省高校卒業認定試験の対策を始めることになり、準備として動画を作成、公開した。これは2018年1月27日毎日新聞の全国版に報道され、高校生の両親から既に問い合わせが入っている。

事業1 「日本手話による教養大学」

日本社会事業大学文京キャンパス（一部清瀬キャンパス）にて、ろう者講師が担当し手話で教授する「手話による教養大学」を開催した。一年次も積極的に受講した他、二年次以上の学生や単位互換制度を利用した他大学の学生が受講した他、聴講生として社会人も受講した。

文京キャンパスの年間開講予定科目20科目のうち、上半期は13科目、下半期は7科目開講し、受講生はのべ81名であった。外部からのろう受講者は26名、学内のろう学生のろう受講者は10名であった。清瀬キャンパスでの手話による教養科目の受講生は??であるが、これは本学社会福祉学部の健聴の学生も混じっている。ろう学生にとって母語で教育を受けられるという非常に大きな意義のある講座となった。そして成果が『手話による教養大学の挑戦』（ミネルヴァ書房）として出版された。

事業2 学内支援

(1) 社会福祉学部等の授業における情報保障者の提供

最高数の入学生を迎え、支援者の確保に苦労したが、学生の履修を制限することなく情報保障を付けることができた。この情報保障は、ノートテイク、PCテイク、手話通訳で、対象学生は、学部一年生4名、二年生5名、三年生4名、四年生1名、大学院博士後期課程1名、大学院博士前期課程2名、通信科2名、計19名であり、支援を行うにあたっては、対象学生と入念なミーティングを行い、各学生の状況及び各授業の教育目的に沿った支援を行うよう心掛けた。そのため、外部の通訳者も活用した。学生支援者は約50名が登録している。

(2) 情報保障者養成の実施

養成の事業としては、経験者学生による講習会を適宜行い（個別に申し出があるたびに必ず対応した）、また昨年設置したコミュニケーションバリアフリー課程で10名の支援者を養成した。5年前数名から始めたパソコンテイクは現在50名の登録者があり、そのうち15名以上が常時活躍している。

(3) ろう・難聴スペシャルデーの開催

8月26日（土）・27日（日）、聴覚障害をもつ受験生のためのオープンキャンパスを清瀬キャンパスで開催した。手話通訳・パソコンテイクつきの進学相談や、支援者および聴覚障害の在学学生と高校生やその保護者たちとの交流会も開催した。昨年度に引き続き「ろう・難聴高校生の学習塾」の広報も兼ねて、「出張・ろう難聴高校生の学習塾」として、学習塾の講師を招いて、小論文や面接対策など、大学の推薦入試に役立つ指導を体験してもらった。また、模擬講義として斉藤くるみの「手話一指先と表情の魔術」（26日）を情報保障付で提供した。プロジェクト室にはろう文化を紹介した書籍やDVDの紹介コーナーも設けた。2日で聴覚障害の学生・保護者ら13名に一日キャンパスの中で過ごしてもらい居心地のよさを体験してもらった。昨年度に引き続きろう重複障がい者（ろうベースの盲ろう者）も参加した。在学中の聴覚障害学生も参加し、高校生へのアドバイスや、大学紹介をしてくれた。

(4) オープンキャンパスでの支援実施

大学で毎年実施するオープンキャンパスでも、来場者の希望するプログラムに手話通訳・PC通訳を配置した。各回、数名の聴覚障害の高校生が訪れた。プロジェクト室のスタッフは必ず出勤し、聴覚障害をもつ高校生の急な参加にも対応できるようにした。昨年度に続き、ろう重複障がい者（ろうベースの盲ろう者）も来校した。参加者のうちろう者及び盲ろう者5名は実際に入試を受験し、4名合格した。

(5) 国家試験対策講座

当事者ソーシャルワーカーの養成として、手話による社会福祉士国家試験の対策講座を開講した。今年度は、集中講座の形で10:00～17:00という時間帯で全3回開講した。受験を控えた4年生だけでなく、1～3年生も受講した。また本学学生だけでなく、他大学の学生も参加し、合計6名が参加した。本学4年生1名が社会福祉士国家試験に合格した。

(6) 文科省高校卒業認定試験の対策講座準備

来年度より開始する学校不適應の高校生のための、文科省高校卒業認定試験対策の準備に着手した。過去の問題を文科省に許可をとり、手話で解説し、全国に動画で発信する。今年度撮影を開始し、既に一部公表している。このことは2018年1月27日、毎日新聞全国版朝刊に報道された。

事業3「ろう・難聴高校生の学習塾」開講

聴覚障害を持つ高校生を対象に、ろう者の講師が手話で教えるクラス、聴者の講師が情報保

障付きで教えるクラスの両方を用意した塾を開講した。1学期・2学期・3学期に加えて、夏期講習を開講した。

1学期は5月26日～7月14日の毎週金曜日、全8回開講し、31名が参加した。夏期講習は8月24日・25日の2日間開講し、25名が参加した。2学期は9月22日～11月17日の毎週金曜日、全8回（11月3日は休み）開講し、36名が参加した。3学期は1月19日～3月9日の毎週金曜日、全8回開講し、35名が参加した。

- 1学期：5月26日（金）～7月14日（金）毎週金曜。8週。

	ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス			
18:00-19:40	英語基礎	英語標準	国語標準	数学標準	英語標準	英語基礎	数学標準	国語基礎
19:55-21:05	英語標準	英語受験	国語基礎	数学基礎	英語基礎	国語受験	数学基礎	国語標準

- 夏期講習：8月24日（木）・25日（金）2日間。

	ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス			
18:00-19:40	英語基礎	英語標準	国語基礎		英語受験	AO対策	国語基礎	数学標準
19:55-21:05	英語基礎	数学標準	国語標準	国語受験	英語基礎	英語標準	AO対策	数学基礎

- 2学期：9月22日（金）～11月17日（金）毎週金曜。9週8回（11月3日は休み）。

	ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス				
18:30-19:40	英語基礎	英語標準	国語基礎	数学基礎	AO対策	国語受験	国語基礎	英語標準	数学標準
19:55-21:05	英語基礎	英語標準	国語標準	数学標準	AO対策	国語受験	英語標準	英語基礎	数学基礎

- 3学期：1月19日（金）～3月9日（金）毎週金曜。8週。

	ろう者講師 手話クラス				聴者講師 情報保障付きクラス			
18:30-19:40	英語基礎	英語標準	国語基礎	数学基礎	国語受験	国語標準	国語基礎	数学標準
19:55-21:05	英語基礎	英語標準	国語標準	数学標準	国語受験	英語基礎	英語標準	数学基礎

今年度も昨年度に引き続き1コマ70分とし、国語（現代文・小論文）・数学・英語・AO対

策の授業を開講した。昨年度2学期以降と同じ新宿三丁目の会場で開講した。

引き続き中学2年生も受け入れ、高校進学のための指導も行った。また、浪人生も複数参加し、それぞれに合わせた受験指導を行った。

大学進学希望の受講生は浪人生を含めて9名で、9名全員が進学した。中学3年生や高校1年生から参加している受講生が大半で、学習塾での指導の成果が出ていると思われる。また、ろう学校の生徒が多く、ろう学校から着実に大学進学者を輩出できていると言える。

卒業生の進学先大学一覧は以下の通りである。

2017年度「ろう・難聴高校生の学習塾」卒業生進学先大学一覧

進学先	人数	出身高校名
相模女子大学	1名	中央ろう学校
昭和女子大学	1名	中央ろう学校
日本社会事業大学	2名	横浜ろう学校、潤徳女子高等学校
和光大学	2名	立川ろう学校、坂戸ろう学校
明治大学	1名	浪人生（中央ろう学校）
筑波技術大学	1名	浪人生（都立武蔵高校中退）
武蔵野大学（通信）	1名	浪人生（平塚ろう学校）

昨年度に引き続き、中学生からの問い合わせが増えている。入塾は中学3年生からとしているが、中学1年生・2年生からの問い合わせも多い。昨年度同様、中学生であっても高校生よりもレベルが高い場合もあり、学習レベル・年齢が多様化している。

参加受講生は、年間を通して30名以上と多く、希望のクラス形態（手話クラスか情報保障付クラスか）や希望科目、レベルが多用で講師・教室不足が引き続き課題であり。

昨年度に引き続きろう重複障がい者（ろうベースの盲ろう者）も通塾し、より多様な支援が必要となった。

受講生の年齢・レベルが多様化する中で、限られた予算でいかに時間割を作成し指導にあたるかが課題である。

人数が増えているのは情報保障付きクラスについても同様で、1クラス8名に対して指導をするケースもあった。手話通訳・PCテイクの組み合わせを工夫して、情報保障を付けられるようにしたが、どうしても足りない場合には筆談と口話による指導をしたこともあった。受講人数が増え、希望が多様化する中で、希望者全員へ情報保障の提供が難しくなっている。

課題もあるが、問い合わせ・受講生の増加はそれだけニーズがあるということの表れであり、一人一人のレベルに合った指導を今後も続けていきたい。

学習塾は基本的に高校生向けであると説明をしているが、中学生以下のろう児の保護者からの問い合わせも急増している。また、学習塾に通えない地方の高校生からの問い合わせも多く、対応を考えたい。

総括

社会福祉学部・専門職大学院・研究科大学院・通信科合わせて過去最高の8名の合格者を迎えた。

2013年度以来、入試への「日本手話」の導入を行い、その入試で入学した学生は国家試験に

合格し、埼玉県の特例支援学校の教諭として採用された。

2018年度から新たに始める高校卒業認定試験対策の準備が進み、既に動画の配信を始めている。2018年1月27日毎日新聞に報道された。

また今年初めて専門職大学院に入学した学生は本学学部の卒業生であり、その後公務員を経て、この度日本唯一の聴覚障害者の就労支援機関に就職するのを前に本学専門職大学院で学ぶことになり、今年度無事卒業し、予定通り就職した。また学部と大学院に盲ろうの学生が入ったことも特記すべきことである。

支援者養成としては、昨年日本初の専門家養成課程「コミュニケーションバリアフリー」が文科省にBP（ブラッシュアップ・プログラム）として認可され、二年目の本年は10名の受講生を迎えた。初年度（昨年）の卒業生の中から、あらたな本プロジェクトの支援者が生まれた。「ろう通訳者」（アメリカなどで発祥した盲ろう支援や、リレー通訳で活躍する手話を母語とするろう当事者の通訳者）の養成も進んでいる。